

## 花

小野澤繁雄

冬の間もあゆみ途中のその沼にことし初めて睡蓮の花

桑の実のしとどに落ちているところ桑の木あれど仰ぎみるのみ

分担の水やりながら心配は花いっぱい運動プランターの花

黄のいろの麦畑すぎて上州の境のまちは浮雲わたる

人が端犬が真中をゆくみちは中学校へ子が通いしみちぞ

寒ざくら数のさびしき花ながら今新緑はゆたかなる塊

葬館の二箇所がほどをみる歩み死者のあるなしが多いか

花咲いて花の大きさ小さくは生れることなき泰山木の花

わずかばかりのバラの径をゆくなれどおわりの始め今日の歩みも

荒れ声に音にとよべにありし家の門に出ている送られる子が